

平成24年1月15日

No.266

畜産会 経営情報

主な記事

- ① セミナー生産技術
現場に即した養豚技術
第6回 直売で実現する販売単価のアップ 山下 哲生
- ② セミナー経営技術
経営支援の実際とそのあり方等について
～第4回 個の指導から面的な指導へ(1)～ 迫田 耕治
- ③ セミナー生産技術
全国和牛能力共進会開催に向けた防疫対策 殿川 剛
- ④ (独)農畜産業振興機構からのお知らせ
肉用牛肥育経営安定特別対策事業(新マルキン事業)の肥育牛補填金単価について
- ⑤ 行政の窓
農林水産関係平成24年度予算概算決定の概要 農林水産省経営局金融調整課
- ⑥ あいであ&アイデア
自前で製作「給餌車」 渡邊 賢一

社団法人 中央畜産会

〒101-0021 東京都千代田区外神田2丁目16番2号
第2ディーアイシービル9階
TEL 03-6206-0846 FAX 03-5289-0890
URL <http://jlja.lin.gr.jp/cali/manage/>
E-mail jlja@jlja.jp

セミナー

生産技術

現場に即した養豚技術 第6回 直売で実現する販売単価のアップ

(有)黒豚振興エージェンシー 山下 哲生

年間を通じて変わらぬ豚肉の小売価格

豚肉生産を行っていると、生産者として一つ疑問に感じる場合があります。それは、市場で取り引きされる枝肉価格が季節的な変動があるのに対して、末端の消費者価格がほとんど変わらないことです。

一般に夏場は高く、秋から冬にかけては安くなるのが例年のパターンです。つまり、食肉卸売市場における上規格の枝肉取引価格が、6月ころに1kg当たり550円、11月ころには350円になります。重量75kgの枝肉ならば、6月では1頭当たり4万1250円、11月では2万6250円。生産者手取り金額は、一番豚

肉が高くなる6月と一番安くなる11月と比べると、枝肉1kg当たり200円、1頭出すごとに1万5000円近くの差が出てきます。もちろん、6月の全国肉豚出荷頭数は、11月と比べると15%近く減るのが通例ですから、出荷頭数の増減を主要因とする市場価格の変化と見てよいでしょう。

しかし、生産者として納得がいかないのは、スーパーや小売店で売られる豚肉の値段が、年間を通じてほとんど変わらずに一定であるという点です。枝肉価格が高い夏場はそれほどではありませんが、出荷頭数が増え市場価格が下がる秋になると、豚肉を直接消費者に売りたいとの気持ちがむずむずと湧き上がっ

てくるものです。

それでは、消費者に直売すればどうか？ということで、これまで、生産者が食肉小売店、食肉加工場などの設置に手掛け、直売を試みる数多く例を見てきました。しかし、その多くの生産者は、手間がかかる割には考えたように収益が上がらないなど商売の難しさを思い知らされ、販売からは撤退、あるいは他人に譲るなどの数多くの事例を目の当たりにしてきました。

そうした中でも、家族、兄弟などの中で、豚の生産をする人、豚肉を商品化する人、売る人、経営を考える人など、それぞれが役割分担を明確にし、「集中」の力で農場も販売もうまくこなしているいくつかの成功例もみられます。

一般によくいわれるように「餅は餅屋」で、豚舎で豚を育ててきた生産者が、いきなり直売をかけても、そうそううまくいくものではありません。まず、直販は、そう簡単にはできないということをいっておきたいと思います。

養豚経営と店舗販売の違いは、 「在庫の概念」

生産者が直売を行う時のポイントを考えてみようと思います。われわれ生産者が見落としがちになるのは、作った物が売れない＝在庫の発生という事実です。この連載でも指摘しましたが、養豚では、生まれた子豚から廃用豚まで、すべての生産物に値段がつきます。また、通常、食肉市場に出荷するならば、と畜してから1週間後には、代金が銀行に振り

込まれてきます

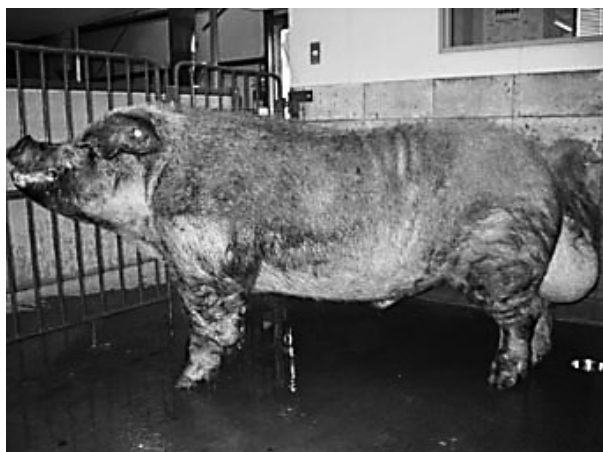
このように、餌や衛生資材などの生産資材の在庫はあるものの、生産物の在庫の発生はゼロとみて良く、かつ販売代金の回収は100%とみてよいのですが、生産者が直売した場合、商品である豚肉は売れ残ったら在庫です。商品は売れて初めてお金になりますが、在庫のままではお金になりません。それどころか、かかった餌代、飼養管理費などがそのまま豚肉の中に、「残された」かたちになります。

さらに、これが売れないで「消費期限（賞味期限ではなく、傷みやすい食品に表示される、安全に食べられる期限）を過ぎると品質が低下し、加工に回さざるを得なくなることから、さらに価値が下がります。いよいよもって売れないと、最終的には廃棄処分しなければいけなくなります。こうなると、赤字どころか、廃棄するのにまたコストがかかり、赤字の上乗せとなります。

食肉の小売業者、スーパーなどは、このような在庫リスクをあげて、小売価格を枝肉価格には連動できないと主張することが多いといえます。

小さい経営で直売する方法

生産した豚の販売単価のアップをめざし、その一環として直売をめざすなら、まず、食肉市場に出しても高い評価が得られるような、高品質の豚を作り出すことです。最低条件でも健康に育て、適正な出荷日齢で出した豚であることが求められます。「誇りと自信を持って出せる」豚であることが、販売の第



デュロック種の雄豚。止め雄に使われることが多い

一歩です。

豚肉の品質を決めるものは、遺伝的な品種、形質が50%、餌の内容が25%、飼い方、環境が25%といえます。ただ、真面目に作りました、一生懸命やりました、地元で作りましたというだけでは、他の国産豚、輸入豚肉との差別化を図るのは、購買者にアピールするのは難しいといえます。

<品種、形質での差別化>

品種の面でいえば、最近人気が出ているのが、種を付ける雄豚の血液にパークシャー種（黒豚）とデュロック種の血液が50%ずつ入ったものを使う方法です。

このタイプの雄を白系の雌に交配し成功している例としては、「平牧三元豚」（山形県酒田市・平田牧場）があげられます。また、パークシャー（黒豚）は、純粋種でブランド化されています。岩手県花巻市を中心に出回っている、「白金豚」（高源精麦(株)）も白豚にパークシャーを交配したものです。

また、特に自分の持つ雄の中で、良いものがあれば、その雄の子どもであることを耳標、



パークシャー種の雄豚。純粋種は「黒豚」の表示で流通できる

耳刻で明らかにできるようにし、それを、選んで肉にすることもできるでしょう。

明るいニュースとしては、牛においては、特定牛の凍結精液が、牛肉の銘柄牛の生産に使われていますが、豚でも、この凍結精液を使った技術がかなり進み、今年から実用普及段階に入ります。雄豚の中にも、必ずローズに脂肪のサシが入るような形質の個体もいます。牛と同様に、このような雄豚の精液を大量に凍結保存しておけば、「銘柄豚」を一定の精液で生産することも可能です。

また、一般に、去勢豚より雌豚の方が、食味が良くなるといわれます。直売するのならばおいしい雌豚を選抜しておくことも、ワンポイントとなります。

<餌、水による差別化>

餌と水は、小さい経営であれば、比較的短期間で、「特徴ある豚肉」生産を作れる有力な武器になります。豚肉の飼料による食の変化は、出荷二月前から、給与した餌で、決まるといわれています。また、ミネラル分に富むおいしい水も、豚肉を同様においしくする



イギリスの小規模農家による放牧養豚

といわれています。サツマイモ、麦など給与するのは定番となっておりますが、身近なところで、特徴のある飼料原料が調達できれば、それが醸し出す、臭い（フレーバー）やイメージで販売の際に強調できるようになります（例＝ハーブ豚など）。

例えば、鹿児島黒豚の場合、サツマイモ由来の原料を仕上げの餌に20～30%加えることとしています。やはり、きっちり作られた鹿児島黒豚の肉には、ほんのりとした甘みが肉に残っています。私が生産してきた英国黒豚は、大麦を食べさせるとおいしい肉になるとイギリスで教えてもらいました。麦を飼料に増量して給与すると、サッパリした、軽い脂の乗った豚に仕上がりました。

静岡県では、リキッド（液餌）で、配合した餌をさらに乳酸発酵させ、乳酸発酵＝ヨーグルトのイメージを掛け合わせ「朝霧ヨーグル豚」（朝霧ヨーグル豚販売協同組合）として販売、高評価を得ています。これは、発酵した餌を給与すると肉質が柔らかくなることから、来ているのかもしれませんが。

＜飼い方による差別化＞

豚の健康ばかりではなく、肉の味を落とすものはストレスです。このストレスを生み出す原因で一番多いのは、狭い面積で飼うこと＝密飼いからくるストレスです。また、換気不良からくる呼吸障害も問題になります。豚は、温度変化や風の流れにも敏感に反応します。

理想的なのは、「自然に近い状態で飼うこと」ですが、これをどう生産に結びつけるかは、なかなか難しいです。ひとつには、放牧養豚を行うことですが、放牧も、原理原則を守り、飼い方もむずかしいものです。去年は、今回の原子力発電所の事故による放射性物資の飛散問題で関東・東北での放牧は自粛せざるを得ませんでした。

「放牧」、「運動」、「自然」が飼い方で特徴づけようとする際のキーワードとなっていますが、筆者自身、英国で体験した放牧養豚が忘れられず、日本でNP0日本放牧養豚研究会を設立しました。詳細は別の機会に譲りますが、放牧すると体脂肪率は下がりますが、赤肉を創る筋肉繊維は、運動が過剰でなければ、ほぐれて、柔らかくなります。

また、土を食べることから、肉の中に、土中のさまざまなミネラル分が取り込まれ、肉の中の「獣臭」がなくなります。さらに、自由に動けることは、密飼いによるストレスを軽減し、豚を健康にします。反面、本来肉の形成に向かうべき、エネルギーが、運動で多くが消費されてしまうため、発育速度の遅れ＝出荷日齢の延びが生じ、餌が余計にかかる

＝飼料要求率の低下につながることにもなりますので、正確な生産コストを把握しておくことが必要でしょう。

放牧した豚は、余分な脂肪がとれ、赤肉＝筋肉は発達しますが、一般に硬くはならず、柔らかくなります。しかし、その結果として出荷日齢は、1ヵ月ほど余計にかかります。また、新しい放牧地ならば、その土を採食することでミネラル分もゲットでき、肉の臭みが抑えられます。

これらを応用してヨーロッパで開発された大群で飼育しながら体重により仕分けるオート・ソーターというシステムを肥育段階で取り入れ、放牧に近い状態を舎飼いでも実現しているところがあります。また、山の土を乾燥させ、これを飼料中に添加し一味変えてい

るところもあります。

飼い方で注意すべきは、欧米の動向で、アニマルウェルフェア（家畜の福祉）の考えが、消費者、その意向を受けたスーパーマーケットなどに広く支持され、飼い方でもって値段が決まる傾向にあります。つまり、小さな農家養豚で放牧養豚をして、餌も自給飼料を主体にしていれば最上の評価となります。日本では、まだ、大きな動きにはなっていないませんが、生産者の農場紹介に加え、生産方法の紹介もするようになってきました。

このように、品種、飼料、水（水は最大の餌）、飼い方の検討で、しつかりした品質の豚をつくり、いよいよ販売へ向かうことにしましょう。

（筆者：（有）黒豚振興エージェンシー代表取締役）

●参考図書●

新・畜産環境保全指導マニュアル

「処理」から「利活用」へ。畜産環境保全をとりまく最新情報を掲載！



「畜産環境保全指導マニュアル」の発行から9年ぶりに改訂された本書は、家畜排せつ物の「処理」から「利活用」へ、またより効果的な臭気対策や騒音対策、水質汚濁防止法改正による污水处理基準の厳格化など、畜産環境保全のニーズの変化に対応した、畜産関係者必携の1冊となっています。

【主な内容】

支援上の心得／畜産環境保全支援の基本／
家畜ふん尿処理技術の基本／環境保全技術の基本／
利用促進の基本／用語解説

◎お問い合わせは――

（社）中央畜産会 事業第一統括部（情報業務）

〒101-0021 東京都千代田区外神田 2-16-2

TEL 03-6206-0846 FAX 03-5289-0890

E-mail book@jlja.jp

URL <http://jlja.lin.gr.jp>

セミナー

経営技術

経営支援の実際とそのあり方等について ～第4回 個の指導から面的な指導へ(1)～

(社)北海道酪農畜産協会 迫田 耕治

第1～3回は畜産個別経営に対する診断手法について紹介してきました。今回と次回(最終回)は、本協会が地元の関係機関と連携しながら実施してきた面的な指導手法を紹介したいと思います。

個の指導から面的指導へ

畜産個別経営に対する診断は、件数も限られ、点の指導になってしまいます。より効果的な支援につなげる方法として、地元の関係機関と連携しながら、畜産協会がコーディネート役を務め地域的な指導をするという取り組みを行ってきました。いわゆる「面的指導」と称する方法です。

本協会では、道内2地域で支援を進めてきました。1地域が「酪農の放牧推進」、もう1地域が「馬産地における和牛推進の取り組み」です。ここでは、私が担当で取り組んだ「馬産地における和牛推進の取り組み」を紹介します。

軽種馬生産のまち・浦河町での和牛推進の取り組み

実施地区は、北海道の太平洋側、えりも岬に近い浦河町です。「軽種馬生産地域における和牛経営の定着及び安定した和牛経営の確

立」というテーマで実施しました。ご存知の方もおられるかと思いますが、「浦河町＝軽種馬生産のまち」です。町の農業・畜産は軽種馬生産を中心に進展してきており、平成20年の農家数をみても、軽種馬220戸、乳用牛16戸、肉用牛44戸と、畜産農家戸数の大多数を軽種馬農家が占めていました(表1)。

一方、軽種馬産業は、競馬の売上不振による相次ぐ地方競馬の廃止問題、それに伴う競走馬需要の低下等から軽種馬農家経済は年々悪化していました。この厳しい状況を打開するため、JA、役場等の関係機関・団体では、多くの対策を講じてきました。その対策の一つとして取り組まれたのが、軽種馬経営に軽種馬生産以外の農業作物を導入して複合化を図ったり、あるいは経営転換を進めて経営の安定化を図っていくことでした。

表1 浦河町の畜産

(単位：戸・頭)

畜種	農家数	頭数
乳用牛	16	506
肉用牛	44	1035
軽種馬	220	1873(繁殖馬)
めん羊	4	337

(平成20年：浦河町役場農林課調べ)

町の軽種馬経営複合化・ 経営転換の歩み



浦河町は、北海道でも比較的温暖で雪が少なく、夏も冷涼という気象条件に恵まれています。その反面、中山間地域であることから広大な耕地面積はごくわずかな地域で、軽種馬経営に導入する作目としては、畜産や施設園芸（イチゴ等）の作物が推進されてきました。イチゴは町の特産にまで成長しました。

日高地域では、過去にも水田農家に和牛を導入するという複合化の取り組みを試みたところがいくつかあります。ところが、水田に四足動物を入れるとなると、草地を確保しなければならない、牧草収穫等の機械がいる、牛を収容するところもある、どのように家畜を販売するのかわからない、誰が技術指導してくれるのか等の課題がいくつも重なり進まない面がありました。

浦河町では馬を飼っていた農家が多いことから、他の地域よりも案外すんなり和牛を導入することが受け入れられ、実際に要望がかなり高かったことから関係機関が一体となって、平成15年以降、軽種馬生産と肉用牛生産との複合化に取り組んできました。

このような関係機関の取り組みもあって、浦河町の肉用牛飼養戸数・頭数は、平成15年の433頭から平成20年の938頭へと、2倍以上に増加しています（表2）。

飼養農家戸数の増加は、特に軽種馬と肉用牛の複合経営が大きく関与しています（表3）。

表2 肉用牛飼養戸数・頭数の推移

(単位：戸・頭)

年次	飼養戸数	繁殖雌牛頭数
平成2	22	165
平成12	32	307
平成15	36	433
平成19	44	858
平成20	44	938

表3 肉用牛経営の経営形態別戸数

(単位：戸)

経営形態	5年前	現在(平成19年)
単一経営	13	13
複合経営	水 稲	11
	酪 農	4
	軽種馬	3
	計	18
合 計	31	44

軽種馬経営に肉用牛(黒毛和種) 繁殖牛を導入するメリット



肉用牛（黒毛和種）繁殖牛の導入は、以下の有利な点があるといえます。

- ① 軽種馬で使用している草地、飼料生産調製機械等が共有でき、また厩舎の改造等で収容施設も簡単に確保できることから、投資額が少なくて済むこと
- ② 現在は素牛価格が下落しているものの、当時は素牛価格も堅調であり、また北海道酪農肉用牛近代化計画等でも肉用牛は成長作目として位置付けられていること
- ③ 馬と牛の違いはあるが、生き物、四足動物を飼養することに抵抗感がないこと

町の主要作物となった 肉用牛支援の必要性



このように浦河町では、新規和牛飼養農家

が増え、頭数も大きく伸びて地域の主要な作目と位置付けられるまでになりましたが、新規和牛飼養農家は軽種馬の飼養に熟練しているものの、和牛飼養はビギナーです。飼養管理技術・成績が既存農家の域にまで達していない部分が多々ありました。また、それほど多額ではなかったとはいえ、和牛部門の新たな設備投資に係る負担もあり、経営内容も安定的とはいえない状況にありました。

すでに地域の主要な作目となった肉用牛を守り育てるためには、新規参入者に対して重点的に飼養管理技術の向上や和牛経営管理指導等を行う必要があります。その上で、地域の重要作目・産業である軽種馬経営を守っていくこととし、本協会では支援を行っています。

取り組みの実施体制

地域の和牛飼養農家は「浦河町和牛改良組合」の構成員として互いに連携しながら和牛

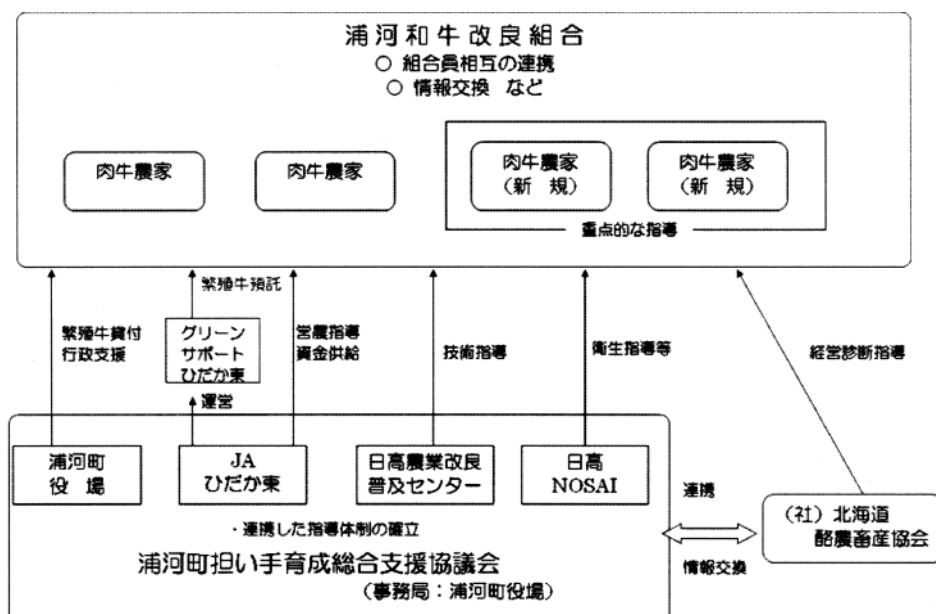
飼養技術の向上や情報交換等を行っています。また、これらの肉用牛生産者を支援するため、役場、JA、農業改良普及センター、NOSAI等地元関係機関が「浦河町担い手育成総合支援協議会（支援協議会）」を設置し、連携をとりながら支援指導を行っています。

各機関の支援内容は以下のとおりです。

- ・浦河町役場：支援協議会の事務局を担当し、繁殖牛の貸付、行政としての支援を実施
- ・JAひだか東：営農指導、資金供給等の業務を実施するほか、繁殖牛の預託を行う「グリーンサポートひだか東（GS）」を運営
- ・日高農業改良普及センター：主に技術指導を実施
- ・日高NOSAI：衛生管理等の指導を実施

本協会（北海道酪農畜産協会）は、支援協議会と連携をとりながら、特に地域の肉用牛農家の経営診断を行い、その分析結果を元に

図1 実施体制図



改善状況や課題等を協議会のメンバーに情報提供を行い、相互に支援事項を協議しながら支援指導を進めています。



グリーンサポートひだか東の役割

浦河町の和牛導入の推進の大きな力となったのが、JAが運営しているグリーンサポートひだか東（GS）です。新たに肉用牛経営を開始しようと考えても、繁殖素牛の導入経費や子牛販売までの費用などを考えるとなかなか肉用牛の導入に踏み切れないものです。GSは黒毛和種繁殖牛の預託を行うことにより肉用牛飼養に踏み切って取り組んでもらうことを目的として、平成15年4月にJA100%出資により設立されました。

業務内容は、農家の複合化を支援するため、黒毛和種繁殖牛の預託やイチゴハウスの貸付なども行っています。黒毛和種の預託は、GS所有の繁殖牛を希望農家に対して預託するので、平成20年までに269頭の繁殖牛を導入し、16戸の農家に預託しています。

預託農家にはGSから「預託料」が支払われ、預託牛の生産子牛の販売収入はGSに入り

ますが、預託農家にも販売実績に応じて「出来高払い」や「奨励金」が支払われ、農家の生産意欲の向上につながっています。

GSの預託事業の利点は、以下のとおりです。

- ① 農家は、繁殖素牛の導入経費がかからない
- ② GSから委託料が収入として入るので、子牛販売までの費用や所得が確保できる
- ③ そのため新たに肉用牛を飼ってみようと思う農家取り組みやすくなる

生産技術向上のための取り組み

軽種馬農家に対して和牛導入を進めたところ、飼料生産は軽種馬でも肉用牛でも共通ですし、交配（血統）も馬でも重要な要素ですから、このあたりの理解は早かったものの、全体的な牛の飼養管理になると熟練の域まで達しておらずもう一息という状況にありました。

本協会では、新規和牛導入農家の課題を明確にするため、軽種馬への和牛導入農家と既存の和牛飼養農家の双方の経営分析を行いました。



その数値からみると、分娩間隔は新規導入農家がやや長かったものの、繁殖成績の向上（分娩間隔の短縮）は当然軽種馬飼養においても重要性が理解されていることから、発情の発見、適期授精等の技術的なことはすぐに理解され、時間の経過とともに改善されていきました。一方、飼料給与については、成雌牛1頭当たり飼料費も多くかかっていたことから、先進的な農家の視察や、飼料栄養学の専門家を招聘しての飼料給与研修会を開催する等の取り組みを行いました。販売価格を上げるための取り組みとしては、JA・普及センター等で交配計画の指導や家畜市場の視察等により、高く評価される素牛づくりへの喚起を進めていきました。

このような取り組みにより、繁殖成績、育成・出荷成績等は改善され、既存の農家と遜色のないところまで到達しました。ただし、まだまだ農家間のバラツキがありますので、今後も支援指導を行い底上げを図っていく必要があると考えています。

コスト低減、所得向上のための取り組み

軽種馬を飼養していたので粗飼料基盤は既にあり、厩舎の改造等で和牛の収容施設も簡単に確保できることから、全くの新規導入よりも投資額が少なく済みました。生産性はいまひとつで、販売価格も低かったことから所得も思うようには上がらない状況でした。実際に平成19年の実績でみると、新規導入農家は売上高は低く、売上原価は高く、そして所得は低い状況にあります。

表4 新規和牛導入農家の経営・技術実績（平成19年実績）

項 目	全 体	新規和牛農家
分娩間隔(ヵ月)	12.7	12.9
去勢子牛日齢体重(kg)	1.065	0.991
去勢子牛販売価格(円)	559,924	538,493
当 成 た 雌 り 牛 1 頭	購入飼料費(円)	72,424
	売上高(円)	335,599
	売上原価(円)	306,646
	所 得(円)	92,579
		34,246

表5 取り組みの成果（平成20年実績）

項 目	全 体	新規和牛農家
分娩間隔(ヵ月)	12.2	11.3
去勢子牛日齢体重(kg)	1.082	1.061
去勢子牛販売価格(円)	454,973	467,292
当 成 た 雌 り 牛 1 頭	購入飼料費(円)	87,029
	売上高(円)	344,448
	売上原価(円)	340,585
	所 得(円)	54,531
		35,058

当然のことではありますが、軽種馬経営が厳しい状況にあるなかで所得を確保するため和牛を導入したのですから肉用牛部門で所得を稼ぐようにすることが重要です。そのために、経費の見直しを行うとともに前述の生産技術の向上を図っていく取り組みを進めてきました。この取り組みにより、生産性の向上とともに所得を向上させる予定でしたが、近年の素牛価格の下落や飼料・生産資材等の高騰等により所得が下がってしまった状況にあります。今後は生産基盤を確立して、さらに生産性の向上やムダな経費の削減をすすめて所得の確保に取り組んでいきたいと考えています。

（筆者：社北海道酪農畜産協会事務局次長兼経営支援部長）

セミナー

生産技術

全国和牛能力共進会開催に向けた防疫対策

第10回全国和牛能力共進会長崎県実行委員会事務局 殿 川 剛

長崎全共の概要



全国和牛能力共進会（以下、「全共」という）は、5年に一度全国の優秀な和牛を一堂に集めて優劣を競う全国規模の大会で本年10月25～29日の5日間にわたり行われます。種牛の部が開催される佐世保市のハウステンボスをメイン会場に、肉牛の部会場、共催イベント会場の島原復興アリーナの3会場において開催することとしています。共進会へは全国38道府県から種牛の部309頭、肉牛の部175頭の合計484頭の出品が予定されています。

平成19年に設立された実行委員会では、これまで開催場所の選定、会場内ゾーニング、施設配置計画などの会場計画等の準備を進めてきましたが、今回の全共は和牛の審査だけではなく、一般消費者に向けた和牛のPRに加えて、長崎県の農畜産物や観光・文化・物産等をPRし、多彩で魅力あるイベント等を展開することとしており、全国から多くの関係者や県内外からの一般参観者が来場することが予想され、期間中37万人の来場者を見込んでいます。

このようなイベントでは出品牛や人に事故のない安全な運営が望まれており、計画立案の重点として、環境への配慮、効率的な運営、

防疫体制の強化を掲げています。特に、防疫体制については、一昨年の口蹄疫の発生を受け、当初の衛生対策計画を見直し、全国の出品者が安心して出品・審査に臨めるような環境整備に努めています。

会場内での衛生対策



一昨年の口蹄疫では、農場間での病原体の拡大は、家畜や飼料、資材等の運搬や人の動きによって伝播した可能性が高いといわれており、関係者のみならず一般参観者も含めた来場者に対する防疫措置をどのようにするのか、また、どのような衛生対策をすれば、効率的な対応が取れるのか検討を重ね、種牛の部が開催される佐世保メイン会場においては次のように衛生対策を強化することとしました。

今回の大会においては、当初計画していた出品牛搬入車両出入口や期間中の出品牛舎や審査会場への出入口での消毒措置に加え、会場全体を消毒エリアとし、出入口を制限し、消毒措置をとることとしました。具体的には、佐世保メイン会場のほぼ全体を一次消毒エリアとし、出入口での消毒措置として、出品牛搬入車両に対しては消毒ゲートにて、その他には消毒マットを設置することとしました。

次いで、大会期間中の出品牛の居住区域で

ある出品牛舎や審査会場、その周辺施設を二次消毒エリアとし、その出入口は10ヵ所に限定し、消毒マットとミスト機による消毒ブースを設置することとしています(図)。

さらに、出品牛舎自体を三次消毒エリアとし出入口に消毒マットや踏み込み消毒槽を設置するとともに、出品牛舎への関係者以外の立入りを制限することとしています。これまでの全共では出品牛舎内も一般の参観者に開放し、和牛のPRの場所とされていましたが、今回は出品牛と接触できる者を極力抑え限定的なものにするために、出品牛舎への立入りは関係者に限ることとしました。ぜひ、この点は関係者のご理解をお願いいたします。

このような措置を講ずることで、関係者や参観者は必ず消毒措置を通過しないと会場内への入場や会場内からの退場ができないとい

う衛生面を考慮した動線計画としています。

なお、大会期間中、出品牛の居住区域の二次消毒エリア内と、外部との車両の出入は基本的に制限することとしており、共進会運営上必要な二次エリア内に配置された軽車両等は、原則このエリア内から退出できないこととしています。

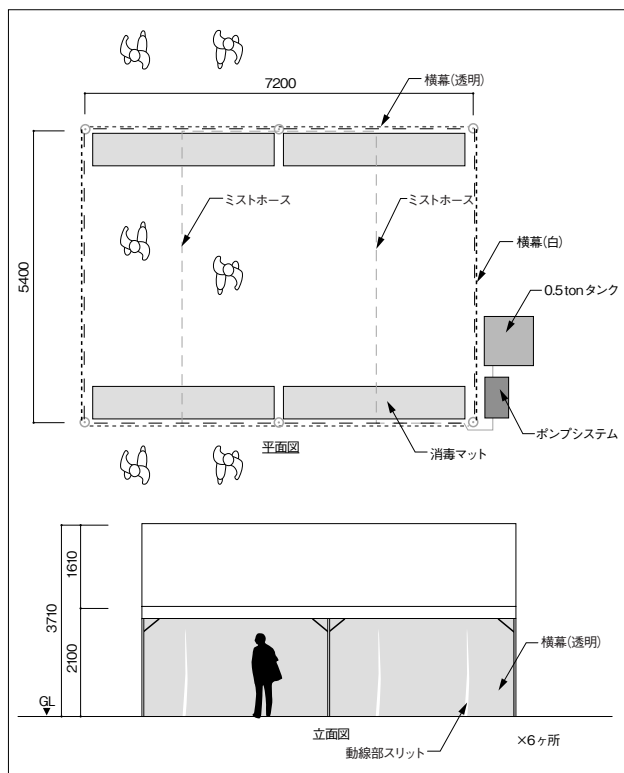
消毒エリア内での衛生状態の確保

また、消毒エリア内を常に清浄な状態に保つため消毒マットや消毒ブースにおける消毒液の補充や交換等の管理を行うとともに、出品牛舎への定期的な巡回による毎日の健康観察をすることとしており、異常が発見された場合、直ちに対応できるような連絡体制も整備することとしています。

畜産農家は安心して出品を

本大会は第10回という節目にあたるとともに、口蹄疫や東日本大震災など、災害からの畜産業の復興のためにも極めて重要な大会であり、全国から多くの畜産関係者のみならず多くの一般消費者の来場も見込まれます。従って、この機会に消費者に和牛について理解を深めてもらうとともに共進会が開催されている会場内での厳重な衛生対策を採ることで、生産現場では衛生対策がしっかりとられていることを周知したいと思います。また、出品関係者には安心して出品し、帰着できる大会にしたいと考えています。

(筆者：第10回全国和牛能力共進会長崎県実行委員会事務局・審査衛生課長)



(図) 消毒ブースのイメージ

(独)農畜産業振興機構からのお知らせ**肉用牛肥育経営安定特別対策事業(新マルキン事業)
の肥育牛補填金単価について****[平成23年11月]****1 頭当たりの肥育牛補填金単価**

牛肉・稲わらからの暫定規制値等を超えるセシウム検出に関する緊急対応策のうち肥育経営の支援対策として、肉用牛肥育経営安定特別対策事業の平成23年第2、3四半期（7月～12月）の補填金について、月ごとに支払う方式とします。

平成23年11月に販売された交付対象の契約肥育牛に適用する肉用牛肥育経営安定特別対策事業実施要綱第5の6の(10)の(イ)の肥育牛補填金の単価については、表1の通り公表しました。

また、補填金の支払いは、12月末までに販売確認申出書の提出を受け、1月下旬に行うこととしています。

なお、青森県、岩手県、宮城県、福島県、栃木県、茨城県、千葉県、長野県、新潟県、宮崎県、熊本県および鹿児島県については、平成23年11月に販売された生産者積立金の納付が免除された交付対象の契約肥育牛に適用する肉用牛肥育経営安定特別対策事業実施要綱附則10、19および22の肥育牛補填金の単価について、表2の通り公表しました。

(表1) 肥育牛補填金の単価の算定

単位：円／頭

区 分	肉専用種	交 雑 種	乳 用 種
平均粗収益 (A)	766,705	413,202	227,490
平均生産費 (B)	844,668	626,457	349,677
差額 (C)=(A)-(B)	△ 77,963	△ 213,255	△ 122,187
補填金単価 (C)× 0.8	62,300	170,600	97,700

注：100円未満切り捨て

(表2) 肥育牛補填金単価

(生産者積立金の納付が免除された交付対象の契約肥育牛)

肉専用種	交 雑 種	乳 用 種
46,700円	127,900円	73,200円

注：本事業は、新たな事業として基金の運営、管理を平成22年4月から開始したことから、補填金交付額に見合う財源を確保できない場合、肉用牛肥育経営安定対策事業（マルキン事業）同様に、上記補填金単価を減額することがあります。

○ 肉用牛肥育経営安定特別対策事業実施要綱（抜粋）

第5の6の(10)の(イ)

県団体は、肥育安定基金の全額を取り崩してもなお支払うべき肥育牛補填金の額に不足が生じる場合は、理事長の承認を受けて、補填金単価を減額することができるものとする。

行政の窓

農林水産関係平成24年度予算概算決定の概要

農林水産省経営局金融調整課

農林水産関連の平成24年度予算概算決定が公表されました。このうち、畜産経営にかかる資金面での支援事業の概要を抜粋して紹介します。

農業経営改善利子補給金等交付事業 (概算決定額 1億4555万3千円)

〈主な内容〉

1 農業経営改善利子補給金等交付事業

都道府県農業信用基金協会と民間金融機関の協調融資方式（3倍協調融資）により、意欲ある農業者が短期運転資金（新スーパーS資金）を低利で調達できるよう、基金協会が民間金融機関に貸付原資を低利預託するために借り入れた借入金に対し利子補給金を交付します。

2 無担保無保証人特別保証事業

本資金の借入者が無担保無保証人で基金協会の債務保証を受けられるよう、基金協会の債務保証引受基盤を強化するための資金を交付します。

新スーパーS資金制度の概要

貸付対象者：認定農業者および六次産業化法認定者

資金使途：農業経営に必要な短期運転資金

極度額等の上限：認定農業者 個人：500万

円、法人2000万円

六次産業化法認定者 個人：1000万円、法人4000万円

借入利率 1.5%（変動金利制。平成23年12月19日現在）

融資枠：170億円

取扱金融機関：農協、信用農協連合会、銀行、信用金庫、信用組合

スーパーL資金の金利負担軽減措置 概算決定額 79億6905万円

〈主な内容〉

平成24年度において「地域農業マスタープラン」に地域の中心経営体として位置づけられた認定農業者が借り入れるスーパーL資金について、資金繰りに余裕がない貸付当初5年間の金利負担を軽減する措置を講じます。

対象資金：スーパーL資金

借入限度額：スーパーL資金

個人1.5億円 法人5億円

償還期限：スーパーL資金

25年以内（うち据置期間10年以内）

融資枠：300億円

金利負担軽減措置：

貸付当初5年間実質無利子化

取扱金融機関：

(株)日本政策金融公庫

沖縄振興開発金融公庫

農業信用保証保険基盤安定事業交付金
(概算決定額 3億735万6千円)

農業者の信用力を補完し、農業近代化資金
その他農業経営に必要な資金の円滑な融通を
図ることを目的として、農業信用保証保険制
度が設けられています。

この農業信用保証保険制度は、①融資機関
が農業者に資金を貸し付けた場合の債務の保
証（実施機関：農業信用基金協会）、②保証
した債務のリスクを軽減するための保険（実
施機関：(独)農林漁業信用基金）の2段階の
仕組みで成り立っています。

〈主な内容〉

農業信用保証保険基盤（保証保険）の強化

国は(独)農林漁業信用基金に対して、保険
引受にかかる財務基盤を強化するための交付
金を交付します。これにより、意欲ある多様
な農業者が創意工夫を生かした経営を展開で
きるよう、必要となる資金の円滑な融通を支
援します。

株式会社日本政策金融公庫補給金
(概算決定額 191億5721万9千円)

1 農林水産業者向け業務補給金

意欲ある農林漁業者等へ長期・低利資金を
融通する際に生ずるコスト等について、所要

額を補給金として交付します。

2 農業改良資金利子補給金

生産・加工・販売分野におけるチャレンジ
性のある取組等を行う農業者等を無利子で後
押しする農業改良資金を公庫が貸し付けた場
合等に、所要額を利子補給金として交付しま
す。

3 担い手育成農地集積資金利子補給金

農業生産基盤の整備等に関する事業を契機
として、農用地の利用集積に取り組む地域に
対し、公庫が当該事業にかかる農家負担分を
無利子で貸し付けた場合に、所要額を利子補
給金として交付します。

**農業経営の復旧・復興等のための
金融支援（概算決定額（復旧・
復興対策分）53億4309万円**

東日本大震災による被害を受けた農業者等
に対して、速やかな復旧・復興のために必要
となる資金が円滑に融通されるよう利子助成
金等を交付します。

（農業者への金融支援等にかかるもの）

被害を受けた農業者が借り入れる公庫の復
旧・復興関係資金について、一定期間（最長
18年間）実質無利子、無担保、無保証人等
での借入が可能となるよう、必要となる利子
助成金および交付金等を交付します。

また、被害を受けた農業者が新規融資を受
けやすくなるよう、再生計画の作成支援その
他債務整理の支援を行う第三者委員会の運営
にかかる経費の財源を信用基金に交付しま
す。

あいであ & アイデア**自前で製作「給餌車」**

社団法人 茨城県畜産協会 渡邊 賢一

今回は、茨城県笠間市で黒毛和牛170頭を飼養している設楽俊夫さん（常陸牛指定生産者）が自前で製作した給餌車（配餌車）を紹介します。

給餌機：feeder

「畜産用語辞典」（養賢堂）によると、「給餌器とは、家畜に飼料を給与する機器、固定飼槽へ飼料を配る場合は給餌器（機）、家畜の種類や飼料の種類によって種々の方式・構造のもの」と記載されています。

最近では、給餌車もさまざまなもの（エンジン付き、バッテリー式、FRP素材の物など）が出回っています。もちろんお金があれば購入も可能なのですが、若干の手間をかけるだけでそれぞれの経営に合った給餌車が製作可能です。

**準備するもの**

①コンパネ（2枚）1枚当たり2000円程度（ホームセンター等で購入可）、厚さは9mm～12mm程度、サイズは910mm×1820mmでOKです。

正確には、コンクリート型枠用合板をコンクリートパネルといいますが、使わなくなった単なる板でも（厚みがあれば）十分です。

②一輪車用のタイヤ（2個）1個800円程度です。若干高価ですが、パンクしない発砲ウレタンタイヤなどもあります。

③前輪用、自在キャスター付タイヤ（2個）1個1000円程度

④鉄枠フレーム（L型30mmのものを4m程度×2本）、鉄丸パイプ3本（取っ手用）

⑤使用する溶接機（エンジン付き溶接機）は、ホームセンター等で販売している小型のものでも性能は十分です。

⑥メジャー（巻尺）、水平器、ペンチ、サンダーまたはグラインダー、ペン、ゴム等

**製作方法とポイント**

①鉄枠フレームの寸法（幅1m25cm・奥行き82cm・高さ45cmの長方体）を測り、縦に4本、横2本使って、土台（底面）を造る。

※切断時のサンダーまたはグラインダー使用時は、火花もでることから、引火物のない所で作業して下さい。(牛舎の通路幅を加味し、水平になるよう計測することがポイント)

- ②フレーム枠を組み、縦に柱(鉄骨部品)を立て、アングル(角度)を決め、結合ポイントの各所を溶接する。この時、水平器を使い、給餌車底面の水平を確認する。

また、タイヤの高さに合わせ、タイヤを設置するフレームや、コンパネ押さえ部分(写真○部分)も取り付ける。

- ③フレームサイズに合わせ、コンパネを取り付ける(縦2枚、横2枚、底1枚)。

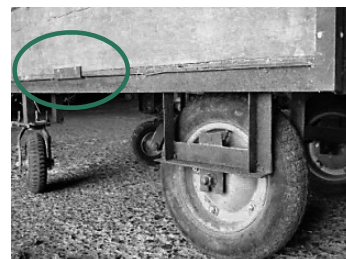
※コンパネは、鉄枠とともにネジ留めし固定する。

- ③枠が完成したら、タイヤ(前輪・後輪)を取り付け調節する。

- ④手押し部分(丸パイプ)をしっかりと固定できるよう溶接し、取り付ける。

※縦に設置するパイプは、古電柱等を利用し、てこの原理で若干曲げておくことがポイント。

- ⑤後は、あなたの腕次第……完成。



工夫と改善点

- ・コンパネ部分にゴムを付けることにより、飼料給与量や牛個体状況のチェックができるような飼養管理表を備えて日常管理が行えます。
- ・以前の給餌車の前輪は、ゴム製で直進しかできない上、振動が大きく、力も必要でしたが、チューブ入りの自在タイヤに変更することにより、飼料給与時の労力が楽になっています。



～ その他自作給餌車の御紹介 ～



四輪小型タイプの給餌車



粗飼料専用の配餌車(改良型)

現在は、紹介した給餌車が2台、小型車が1台、粗飼料専用車が1台あり、既に数十年使用しているとのこと、タイヤの交換はあるものの、安価ででき、長期利用が可能です。みなさんも自身で製作してみませんか？